

下大和田谷津田だより

2004年4月号

第50回「下大和田谷津田の 観察会とゴミ拾い」報告

3月7日 晴れ

まだ気温も低く地面に張り付いて咲くタンポポが、種を实らせた花茎だけを精一杯伸ばして種を遠くに飛ばそうとしている様子を観察しました。シジュウカラとセグロセキレイが囀っていました。久しぶりにコジュケイの「ちょっとこーい」の声も聞きました。モズはヒヨドリの鳴きまねをしていました。田んぼのタネツケバナを味わったり、キュウリグサの香りを楽しんで谷津田を一巡しました。午後には地元のご婦人のグループ11名の方を谷津田にご案内しました。地元の方を私たちがご案内するのもおかしなものですが、普段谷津田を見ている気もつかなくなったり、知らなかったことがたくさんあって面白かったとの感想をいただきました。斜面林の手入れは引き続きアズマネザサの伐採です。作業に先立ち、農政センターのセンター長さんから剪定バサミの使い方や、ヤマの手入れの仕方、注意事項などを教えていただきました。笹が刈られるにしたがって林の中がずいぶん明るくなりました。今回もフジ蔓のブランコは大人気で地元のご婦人も帰って洗濯物を取り入れなくてはと言いつつ楽しんでいました。

開花植物：セイヨウタンポポ、ハルジオン、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、キュウリグサ、ナズナ、タネツケバナ。スズメノカタビラ、(ツクシ)。

昆虫：ヒラタアブの仲間がホトケノザの花の周りでホバリングしていた。羽化したばかりのきれいなキリウジガガンボが見られた。ヨコズナサシガメの幼虫のコロニーを見た。ゲンゴロウの仲間の一種が田んぼにいた。

クモ：ウメノキゴケのなかにカニグモの仲間と思われるものがいた。

他：メダカ、ドジョウ、カワニナ、マルタニシ、オオタニシ、ヨコエビ、ニホンアカガエルの卵塊とオタマジャクシ。

鳥：ダイサギ、コジュケイ、カワセミ、セグロセキレイ、モズ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、カラダカ、アオジ、ハシブトガラス。(斜面林の中に首のないカルガモのまだ新しい血も固まっていない死体があった)

(参加者：大人18人 子ども3人 報告：網代春男)

第34回谷津田プレーランド・プロジェクト(YPP) 味わおう！谷津田の春 3月21日 晴れ

前日の雨があたってさわやかな春の日差しのもと、恒例の野草を食べる会をしました。ウグイスがあちこちでさえずる谷津に集まったのはなんと70人！とこれまでに最高の参加者数、しかも、半数が子どもたちというにぎわいでした。まずは、みんなで野草さがしに谷津田を散策。ちょうど食べ頃のニトコをはじめとして、ヨモギ、カラスノエンドウ、セリ、セイトカアワダチソウ、ミツバ、ノビル、ツクシなどなど、この季節あちこちにごちそうが一杯。天ぷらを中心に、お浸し、炒め物、お団子と春の味を楽しんだら、たくさん摘んだ野草もあつという間になくなってしまいました。ザリガニの天ぷらは子どもたちの一番人気で、自分で揚げちゃうほど。お腹が一杯になったところで、竹細工、縄ない、魚採り、野鳥観察とグループに分かれてアクティビティ楽しみました。子どもたちは弓矢づくりやたき火、林でターザンごっこと谷津のあちこちに散らばって思い思いに遊び、まさに「谷津田プレーランド」でした。

(参加者：大人36人・小学生24人・乳幼児10人、報告：高山邦明)

下大和田季節のたより

3月7日 田んぼのあちこちでセリが芽生える。畦にたくさんのモグラ塚。雑木林にクロジの姿を確認。

3月21日 オオタカ、ノスリが飛ぶ。群れをなすオオジュリンとアカゲラは初記録(いずれも越川氏の観察)。春先一番に現れるクワゴマダラヒトリの毛虫が芽を出した畦の草を一生懸命食べていた。

3月27日 斜面林でイヌシデの芽吹きがはじまる。アズマヒキガエルの産卵を確認。田んぼでアメンボウが姿を現す。

4月1日 シュレーゲルアオガエルが鳴き始める。小川や田んぼにたくさんのメダカの姿。

(報告：高山邦明)

コブシや桜に続いて街中ではたくさんの花が咲いていますが、谷津田でも草花が次々と開花してこれからが花盛り。1週間たっただけで花の種類がグンと増えているのに驚かされます。いよいよシュレーゲルアオガエルも鳴き始めました。小川や田んぼのメダカも元気一杯。

春さがしに忙しい季節です。

高山邦明